

いつまでも安心・安全に暮らせるまちづくりに向けて

# 鹿部町 土地利用計画

— 概要版 —

平成31年 3月  
鹿部町





# 目次

<b>1</b>	<b>鹿部町土地利用計画の目的と位置付け</b> .....	<b>1</b>
+	1-1 計画策定の目的 .....	1
+	1-2 計画策定の位置づけ .....	1
+	1-3 対象区域 .....	1
+	1-4 計画期間 .....	1
<b>2</b>	<b>目指すべきまちの構造</b> .....	<b>2</b>
+	2-1 まちの将来像 .....	2
+	2-2 まちの構造 .....	3
+	2-3 主要施設の配置 .....	5
<b>3</b>	<b>実現化に向けて</b> .....	<b>7</b>
+	3-1 ハード面に関する課題 .....	7
+	3-2 ソフト面に関する課題 .....	9

# 1

## 鹿部町土地利用計画の目的と位置付け

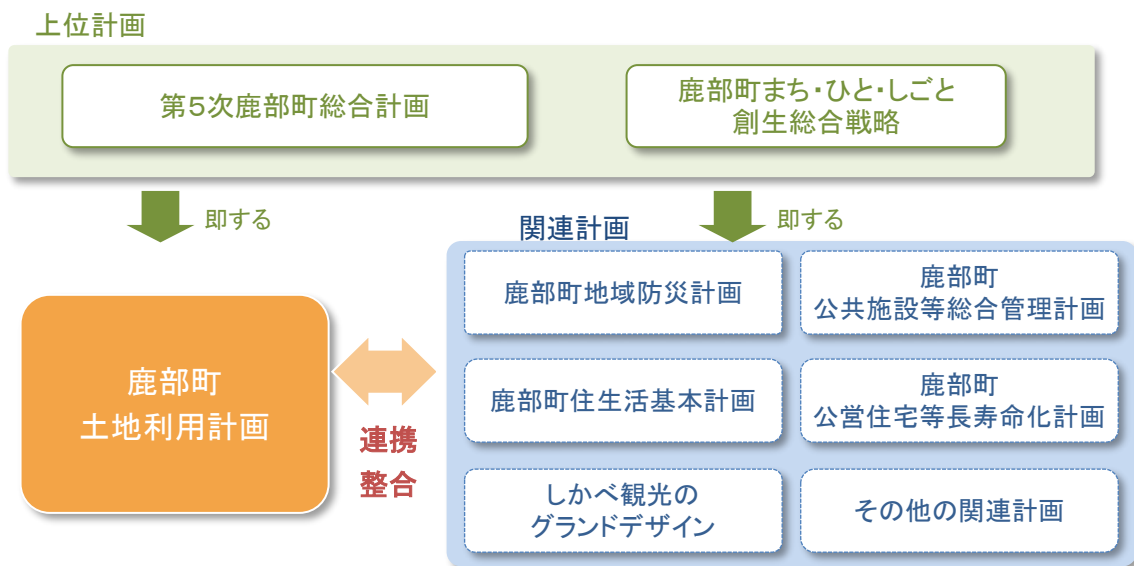
### ★ 1-1 計画策定の目的

鹿部町土地利用計画は、本町が今後取り組むべき重点施策の整備方針等を反映させ、将来像を描き、まちづくりに関する様々な整備及び取組の方向性を示すものである。また、町民と行政が協働で鹿部町の将来像を描き、鹿部町全体の土地利用を計画するものである。

### ★ 1-2 計画策定の位置づけ

本計画は、本町のまちづくりの最上位計画である「第5次鹿部町総合計画」の土地利用部門に関する部門別計画である。さらに、本計画は、防災、住宅、観光などの他の関連計画との連携や整合を図るものとする。

#### 【土地利用計画の位置づけ】



### ★ 1-3 対象区域

本計画の対象区域は、鹿部町全域（110.63 km<sup>2</sup>）とする。

### ★ 1-4 計画期間

計画期間は平成31年度（2019年度）～平成40年度（2028年度）の10年間とする。

なお、社会経済状況の変化や国・北海道の動向、本町の人口・土地利用等の動向や上位・関連計画との整合、施策の進捗や効果等を踏まえて、適宜見直しを行うものとする。

## 2

## 目指すべきまちの構造

## ★ 2-1 まちの将来像

「町長ビジョン」や「鹿部町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえ、目指すべき「まちの将来像」を以下のとおり設定する。

## 【まちの将来像】

## 将来人口

- ・人口が増加またはゆるやかな減少となっている。
  - ・「鹿部町まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、2040年には人口約3,400人を目指すこととしている。（高齢者割合41%、年少人口割合12%）
  - ・「町長ビジョン」で2033～2038年頃に人口5,000人程度を目指すこととしている。（2015年の人口は約4,200人。高齢者割合は36%、年少人口割合は10%）

## 行政サービス

- ・行政手続きのオンライン化が普及し、町民は窓口へ訪れる必要は少なくなっている。
- ・行政機能の効率化・高度化が図られている。
- ・防災拠点が整備されるとともに、町内で想定される災害に対し、適切にリスク分散が図られている。

## 学校

- ・オンライン教育の発達により町内で高等教育を受けることが可能となっている。

## 産業

- ・漁場整備や漁業の6次産業化により、漁業が憧れられるかつ儲かる産業となっている。
- ・「浜のかあさんシリーズ」「まるごと鹿部」など鹿部ブランドが確立し、食と観光によるまちづくりが推進されている。
- ・福祉産業による地域循環型経済が構築され、町民が様々な福祉サービスが享受できる環境整備が図られている。

## リゾート・移住

- ・交流・関係人口増加から移住へという形態が確立している。
- ・リゾートエリアと浜の美しい融合が実現されている。

## 自然

- ・森・川・海の自然を間近に感じることができる生活を送ることができる。
- ・磯の保全と活用が図られている。

## 交通

- ・自動運転バスやAIによる効率的配車等により公共交通が維持されている。
- ・北海道新幹線（新函館北斗～札幌）が開業、北海道縦貫自動車道（函館～札幌）が開通している。

## エネルギー

- ・地熱エネルギーが漁業や農業振興に活用されている。

## ★ 2-2 まちの構造

「まちの将来像」の実現に向けて、本町の目指すべき「まちの構造」を以下のとおり設定する。

### (1) 拠点

町民にとって利便性が高く、また賑わいを実感できるまちづくりを目指し、「福祉・公共サービスゾーン」「産業・観光交流ゾーン」「リゾートゾーン」の3つの拠点を定める。

「福祉・公共サービスゾーン」は、「鹿部バイパス沿い（渡島リハビリテーションセンター～道道・バイパス交差点付近）」および「現小学校・幼稚園付近」とする。「福祉・公共サービスゾーン」内には、「町役場」や「リハビリセンター」「消防署」「文教施設」などの生活に必要な施設を配置し、一度に用事を済ますことのできる利便性の高い拠点を形成するものである。なお、「福祉・公共サービスゾーン」は火砕流や津波が到達しないと想定されている範囲に設定し、安心安全な拠点形成を図る。

「産業・観光交流ゾーン」は、「旧国道付近（道の駅～鹿部漁港～本別漁港～出来瀬漁港）」に設定する。「産業・観光交流ゾーン」では、道の駅を核とし、町民・観光客が周遊し、まちの賑わいが溢れる拠点づくりを図るものである。

「リゾートゾーン」は、「鹿部リゾート～鹿部駅」とする。「リゾートゾーン」では、「鹿部リゾート」や「鉄道駅」を活かし、町外から人が訪れ、また居住したくなるような潤いある拠点形成を目指すものである。

### (2) 軸

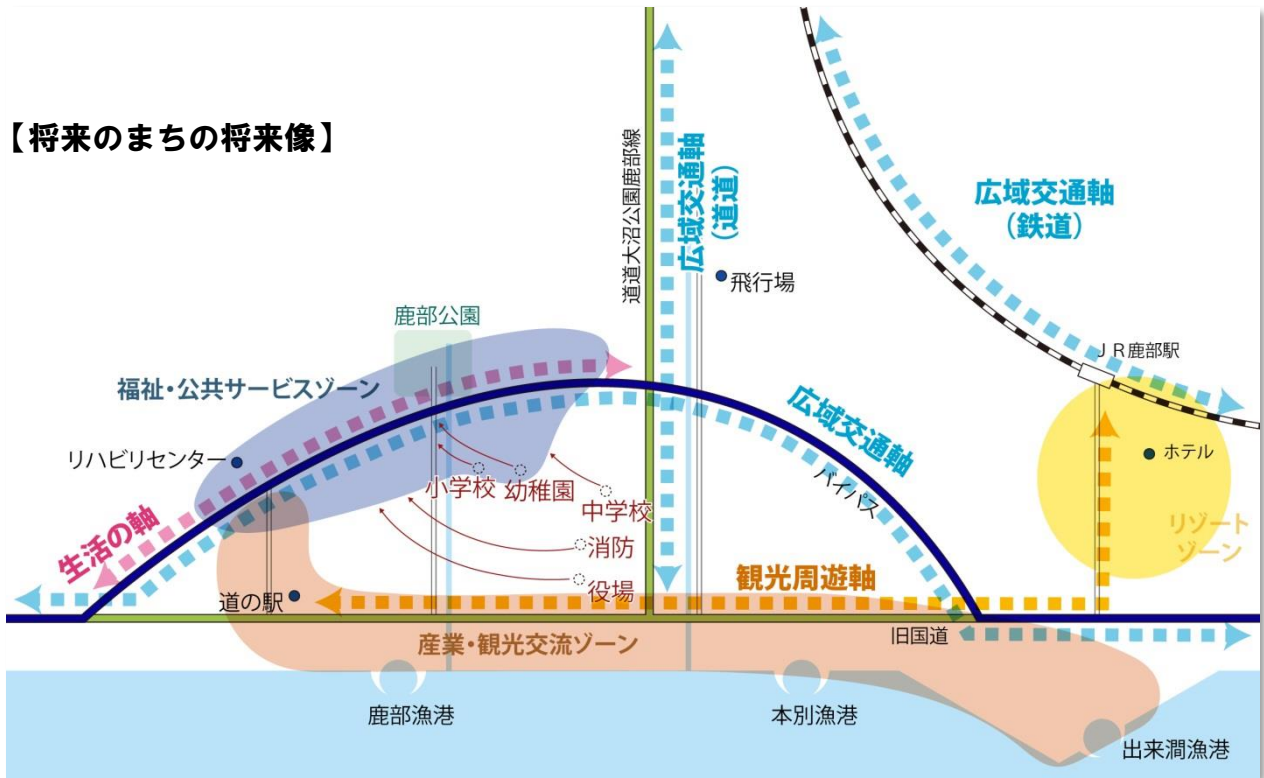
上記で位置付けた拠点をつなぎ、さらにまちの賑わいと利便性を生み出すため、「生活の軸」「広域交通軸」「観光周遊軸」の3つの軸を定める。

「生活の軸」は、「鹿部バイパス沿い（旧国道交差点（大岩）～道道・バイパス交差点）」とする。「生活の軸」は、各種公共サービスを結び、町民が円滑に公共サービスを楽しむことができるような環境づくりを担うものである。「生活の軸」沿いでは、地域に根差した生活交通システム等の形成を図る。

「広域交通軸」は、「国道 278 号」、「道道大沼公園鹿部線」、「鉄道」とする。「国道 278 号」は、町内の地域間移動と町外移動の役割を果たし、「道道大沼公園鹿部線」は町外移動、「鉄道」は公共交通の移動軸として、町外との交流を支えるものである。

「観光周遊軸」は、「旧国道（道の駅～リゾートゾーン）」とする。「観光周遊軸」は、上記に位置付けた「産業・観光交流ゾーン」「リゾートゾーン」を結び、鹿部で遊び、鹿部で宿泊できる、周遊性の高いまちづくりを図るものである。

## 【将来のまちの将来像】



## 【拠点・軸の位置と主な構成施設】

名称		位置	主な構成施設・基盤施設
拠点	福祉・公共サービスゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿部バイパス (渡島リハビリテーションセンター～道道・バイパス交差点付近) および現小学校・幼稚園付近</li> <li>※火砕流・津波の到達想定範囲外とする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>町役場</li> <li>リハビリセンター</li> <li>消防署</li> <li>文教施設 (幼稚園・小学校・中学校)</li> </ul>
	産業・観光交流ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧国道付近 (道の駅～鹿部漁港～本別漁港～出来潤漁港)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小売店・飲食店</li> <li>道の駅</li> <li>旅館・温泉</li> </ul>
	リゾートゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿部リゾート～鹿部駅</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄道駅</li> <li>ホテル</li> <li>ゴルフ場</li> </ul>
軸	生活の軸	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿部バイパス (旧国道交差点 (大岩)～道道・バイパス交差点)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活交通システム (路線バス、デマンド交通等)</li> <li>安全快適な歩行・自転車空間</li> </ul>
	広域交通軸	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿部バイパスを含む国道 278 号 (町内地域間移動と町外移動の自動車軸)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国道</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>道道大沼公園鹿部線 (町外との主たる移動軸)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道道</li> <li>都市間バス</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄道 (公共交通の移動軸)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄道</li> </ul>
観光周遊軸	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧国道ほか (道の駅～リゾートゾーン)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全快適な歩行空間</li> <li>自転車空間</li> </ul>	

## ★ 2-3 主要施設の配置

前述した「まちの構造」を実現するにあたっては、主要施設の具体的な配置を検討することとなる。

そこで、主要施設の配置の検討を行う上にあたっての考え方を下記に整理する。

### 【主要施設の配置・配置の考え方】

施設	主要施設の配置・配置の考え方		課題 (「③実現化に向けて」参照)
役場	配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役場は「福祉・公共サービスゾーン」内に配置する。</li> <li>・一度に用事を済ますことのできる環境形成を目指し、「福祉・公共サービスゾーン」には、役場以外の他の施設も配置する。</li> </ul>	-
	配置の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役場へは自家用車でのアクセス需要が高い<sup>※1</sup>ため、全町から自家用車で円滑にアクセスできる環境整備が必要。</li> </ul>	道路ネットワーク整備
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・一方で、「車を持っていないため、役場が遠くなると困る」との意見も見られる<sup>※1</sup>ため、高齢者や車を持たない方でもアクセスできる環境整備が必要。</li> </ul>	公共交通整備
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時には職員が速やかに役場へ出勤する必要があるが、役場をバイパス沿いに配置すると、職員のアクセス性が下がる可能性がある。そのため、災害時のアクセス性の確保が必要。</li> </ul>	避難路ネットワーク整備 防災意識の向上
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「施設は集約して利便性を高めるべき」等の意見が見られるため<sup>※1</sup>、どのような施設と連携するかを検討することが必要。</li> </ul> <p>&lt;アンケートや委員会などでの意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「災害時の連携を円滑にするため、役場は避難所付近に建ててほしい」<sup>※1</sup></li> <li>・「役場と消防署は近い方が日常から連携が図れるのでは」「災害時に両施設とも被災するのは避けるべき」<sup>※1, 2</sup></li> <li>・「渡島リハビリテーションセンターと近いと、福祉上の連携が図れるのではないか」<sup>※1, 2</sup></li> </ul>	公共施設間の連携	
消防署	配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防署は「福祉・公共サービスゾーン」内に配置する。</li> </ul>	-
	配置の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内各所へ出動できる環境整備が必要。</li> <li>・「施設は集約して利便性を高めるべき」等の意見が見られるため<sup>※1</sup>、どのような施設と連携するかを検討することが必要。</li> </ul> <p>&lt;アンケートや委員会などでの意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「役場と消防署は近い方が日常から連携が図れるのでは」「災害時に両施設とも被災するのは避けるべき」<sup>※1, 2</sup></li> </ul>	道路ネットワーク整備  公共施設間の連携



## 【主要施設の配置・配置の考え方（つづき）】

施設	主要施設の配置・配置の考え方		課題 (「③実現化に向けて」参照)
文教施設	配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文教施設は「福祉・公共サービスゾーン」内に配置する。</li> <li>・一度に用事を済ますことのできる環境形成を目指し、「福祉・公共サービスゾーン」には、文教施設以外の他の施設も配置する。</li> </ul>	-
	配置の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「市街地から遠くなるのであれば、スクールバス等があるとよいのでは」という意見が見られる<sup>※1</sup>ため、児童の登下校の手段を確保することが必要。</li> </ul>	公共交通整備
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校用地には広い敷地が必要。</li> <li>・「施設は集約して利便性を高めるべき」等の意見が見られるため<sup>※1</sup>、どのような施設と連携するかを検討することが必要。  <ul style="list-style-type: none"> <li>＜アンケートや委員会などでの意見＞</li> <li>・「幼稚園・小学校・中学校は統合したほうがよいのでは」<sup>※1</sup></li> <li>・「鹿部公園や町民プールと隣接すると、良好な学習環境となるのでは」<sup>※1</sup></li> </ul> </li> </ul>	用地の確保  公共施設間の連携
3施設 共通事項	配置の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「福祉・公共サービスゾーン」内では、一部火砕サージ到達想定区域となっているとともに、「鹿部バイパス～道道」の取り付け道路の一部で土砂災害警戒区域となっている箇所があるため、安全に避難できる環境整備が必要。</li> </ul>	避難路ネットワーク整備 防災意識の向上
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイパス沿いは高速で通過する車両が多いため、町民、特に児童が安心して通行できる環境整備が必要。</li> <li>・バイパス付近はクマ・シカ・ウマ等の有害鳥獣が出没する可能性があるため、有害鳥獣対策が求められる。</li> </ul>	バイパス付近の安全性の確保 有害鳥獣への対応
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「福祉・公共サービスゾーン」内には、公有地が少なく、また鹿部公園付近等は土地の高低差があるため、用地取得・用地造成が必要。</li> <li>・公共施設の配置には、多額の財政支出が必要であるため、財政状況の改善が必要。</li> </ul>	用地の確保 財政状況の改善
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路や上水道等へのインフラ需要の増加に対応するために、インフラへの追加投資が必要。</li> </ul>	インフラ整備
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・3施設をバイパス沿いへ移転すると、現市街地の賑わいが低下する可能性があるため、賑わいを維持できる取り組みが必要。</li> </ul>	まちの賑わいづくり

※1：町民アンケート ※2：策定委員会

# 3

## 実現化に向けて

「まちの構造」の実現化に向けた課題をハード面・ソフト面から整理する。

### ★ 3-1 ハード面に関する課題

#### ① 道路ネットワークに関する課題 ～ バイパスと旧国道の取り付け道路が必要

本計画では、鹿部バイパスを「生活の軸」として位置づけているが、現状、鹿部バイパスへは取り付け道路が少なく、加えて鹿部バイパスへアクセスするためには迂回しなければならない箇所が見られるなど、鹿部バイパスへのアクセス利便性は十分とは言えない。そこで、町内のあらゆる場所から、鹿部バイパスへ円滑にアクセスできるような道路ネットワークを形成することが求められる。

課題解決  
に向けて

- ・ 取り付け道路の整備
- ・ 市街地でみられる狭隘な道路や曲がりくねった道路の解消  
(特に「渡島リハビリテーションセンター付近の取り付け道路」と「森警察署鹿部駐在所から東光寺に至る取り付け道路」の改良)

#### ② 避難路ネットワークに関する課題 ～ 災害を軽減する道路整備が必要

本計画で示したとおり、本町は駒ヶ岳の噴火や津波、土砂災害のリスクを抱えており、いざというときに適切に避難することが求められる。しかし、「道路ネットワークに関する課題」で触れたように、町内の道路ネットワークが十分でなく、また一部道路は発災時に使用できなくなる可能性がある。そのため、誰もが安全に避難できるように、避難路ネットワークを形成することが必要である。

課題解決  
に向けて

- ・ 取り付け道路の整備
- ・ 代替道路の整備  
(特に、土砂災害特別警戒区域に指定されている「渡島リハビリテーションセンター付近の取り付け道路」に代わる道路の整備)

#### ③ バイパス付近の安全性の確保に関する課題～ 信号機や街灯の設置、獣害対策が必要

本計画では、「福祉・公共サービスゾーン」を鹿部バイパス付近または現小学校・幼稚園付近としており、将来的には、町民が鹿部バイパスを横断して主要施設にアクセスする可能性がある。しかし、現状、鹿部バイパスは自動車が高速で通過している状態にあり、また鹿部バイパスを超えて駒見側はクマやシカ、ウマが出没する可能性がある。町民アンケートにおいても、「児童が交通事故にあわないか心配」「クマが怖い」等の声が寄せられた。そのため、町民が安心して通行・通学できるように、鹿部バイパス付近の交通安全性の確保や獣害対策を行うことが求められる。

課題解決  
に向けて

- ・ 交通安全対策の推進  
(信号機・街灯の設置、防犯カメラの取り付け、横断歩道や標識の整備)
- ・ 有害鳥獣の出没防止策の推進  
(道路法面の下刈りや刈り払いによる侵入経路の分断、侵入防止柵の設置、個体の管理など)

#### ④ 用地の確保に関する課題 ～ 財政面を考慮した用地選定が必要

本計画を実現する上では、「主要施設の配置」について、具体的な用地を選定する必要がある。しかし、町内では活用可能な公有地が少なく、場合によっては用地の買い取りや土地の高低差を解消するための造成が必須となるが、そのためには多額の財政支出が必要となる。そこで、財政面も踏まえた用地の選定が重要となる。

課題解決  
に向けて

- ・ 財政面も踏まえた用地選定の検討  
(「主要施設の配置によって得られる利益」と「財政支出」の比較、費用対効果が高い用地の選定など)

#### ⑤ インフラ整備に関する課題 ～ 道路や上水道の整備が必要

本計画で位置付けた「まちの構造」を実現すると、鹿部バイパス沿いがまちの中心となり、鹿部バイパスへのアクセス需要が増えることが想定される。アクセス需要が増えた場合、現在の道路ネットワークや上水道等のインフラ施設では需要を受け止めきれない可能性があるため、インフラ施設への追加投資が求められる。

課題解決  
に向けて

- ・ 将来の需要も見通したインフラ施設への追加投資の検討

#### ⑥ まちの賑わいづくりに関する課題 ～ 市街地の賑わいづくりが必要

本計画が実現すると、主要施設がバイパス沿いもしくは現小学校・幼稚園付近に移転配置となるが、それにより、現市街地の賑わいが低下することが懸念される。町民の居住場所や商業施設が必ずしも「生活の軸」としたバイパス沿いに移転するとは考えづらいため、今後とも、現市街地の賑わいを維持し、まちを盛り立てていくことが重要となる。そのため、市街地を空洞化させないように、うまく主要施設の跡地を活用し、新たなまちの賑わいを生む取り組みを進めることが重要となる。

課題解決  
に向けて

- ・ 役場、消防署、文教施設の跡地の改修の検討  
(観光拠点・福祉施設の整備など)
- ・ 跡地を活用した観光拠点と道の駅との連携による、  
産業・観光交流ゾーンづくりの検討 (歩きたくなる街並み整備等)

## ★ 3-2 ソフト面に関する課題

### ① 公共交通に関する課題 ～「鹿部町地域公共交通活性化協議会」と連携した取り組みが必要

本計画で位置付けた「目指すべきまちの構造」を実現する上では、「生活の軸」となる鹿部バイパスをスムーズに移動できる環境が求められる。しかし、現状、鹿部バイパスは自家用車による通行が主であり、公共交通機関が運行しておらず、高齢者や自動車を所有していない方が鹿部バイパスを移動する手段が提供されていない状況にある。

一方、本町では、「第5次鹿部町総合計画」を受け、2016年度（平成28年度）に「鹿部町が目指す公共交通の方向性（案）」を策定し、「持続可能な公共交通体系の構築」「町内を面的に移動できる交通体系の構築」「新たな公共交通サービスの提供（デマンドバス・予約型乗合バス）」などに取り組むこととしている。これを踏まえ、「鹿部町地域公共交通勉強会」を立ち上げ、2018年度（平成30年度）には「循環バスやデマンドタクシーのモニター実験」を実施し、また今後は「本町と新函館北斗駅を結ぶ広域シャトルバスの実証実験」や「タクシー事業者の誘致」を検討している。

本計画においては、鹿部バイパス沿いを円滑に移動できる環境の整備に向け、これら「鹿部町地域公共交通勉強会」の取組と連携し、本町の特性とニーズにあった地域公共交通体系の形成を推進することが求められる。

課題解決  
に向けて

- ・「鹿部町地域公共交通活性化協議会」と連携した地域公共交通体系の整備（循環バス・路線バスの導入検討、広域シャトルバスの実証実験の実施、タクシー事業者誘致の検討など）
- ・地域公共交通網形成計画の策定

### ② 防災意識に関する課題 ～ハザードマップの更新や防災訓練の実施などの意識啓発が必要

本計画で位置付けた「主要施設の配置」を実現することで、主要施設が被災する可能性は減少するものの、用地の選定によっては、火砕サージが到達する可能性がある。また、災害想定は絶対的なものではなく、時には想定を超えた甚大な災害が起こる可能性もある。そのため、ハード整備のみならず、町民各々が正しい知識を身に着け、いざというときに適切な対応を取れるよう、意識啓発を進めることが必要となる。

課題解決  
に向けて

- ・防災訓練の実施
- ・津波・土砂災害・駒ヶ岳噴火を網羅したハザードマップの作成の検討
- ・住民主体による地区防災計画の策定支援の検討
- ・役場職員への「鹿部町災害時職員初動マニュアル」の周知

### ③ 有害鳥獣に関する課題 ～ 関係各所が連携した有害鳥獣対策が必要

「ハード面に関する課題」において、有害鳥獣に対する出没防止策について触れたが、あらゆるハード整備を徹底したとしても、人間がその出没すべてをコントロールできるものではない。そのため、有害鳥獣が出没する可能性があることを念頭に、行政・町民が協働して、対応策を講じることが求められる。

課題解決  
に向けて

- ・ 有害鳥獣出没時の体制づくり
- ・ 町民に対する有害鳥獣に関する意識啓発の推進の検討  
(有害鳥獣出没パンフレットの作成など)

### ④ 財政状況の改善に関する課題 ～ 公共施設の料金見直しが必要

本計画を実現する上では、施設自体の建設費に加え、用地の確保や造成、道路や上水道のインフラ整備を行う必要があり、多大な財政支出が必要となることが想定される。そのため、本町の財政収支を見直す必要がある。

課題解決  
に向けて

- ・ 町民の需要の把握による、財政収支の見なおしの検討
- ・ 施設の運営費・維持費に見合った、町民負担の検討  
(「山村広場」「総合体育館」「鹿部コミュニティプール」の使用料の見直しなど)

### ⑤ 公共施設間の連携に関する課題 ～ 具体的な連携策の検討が必要

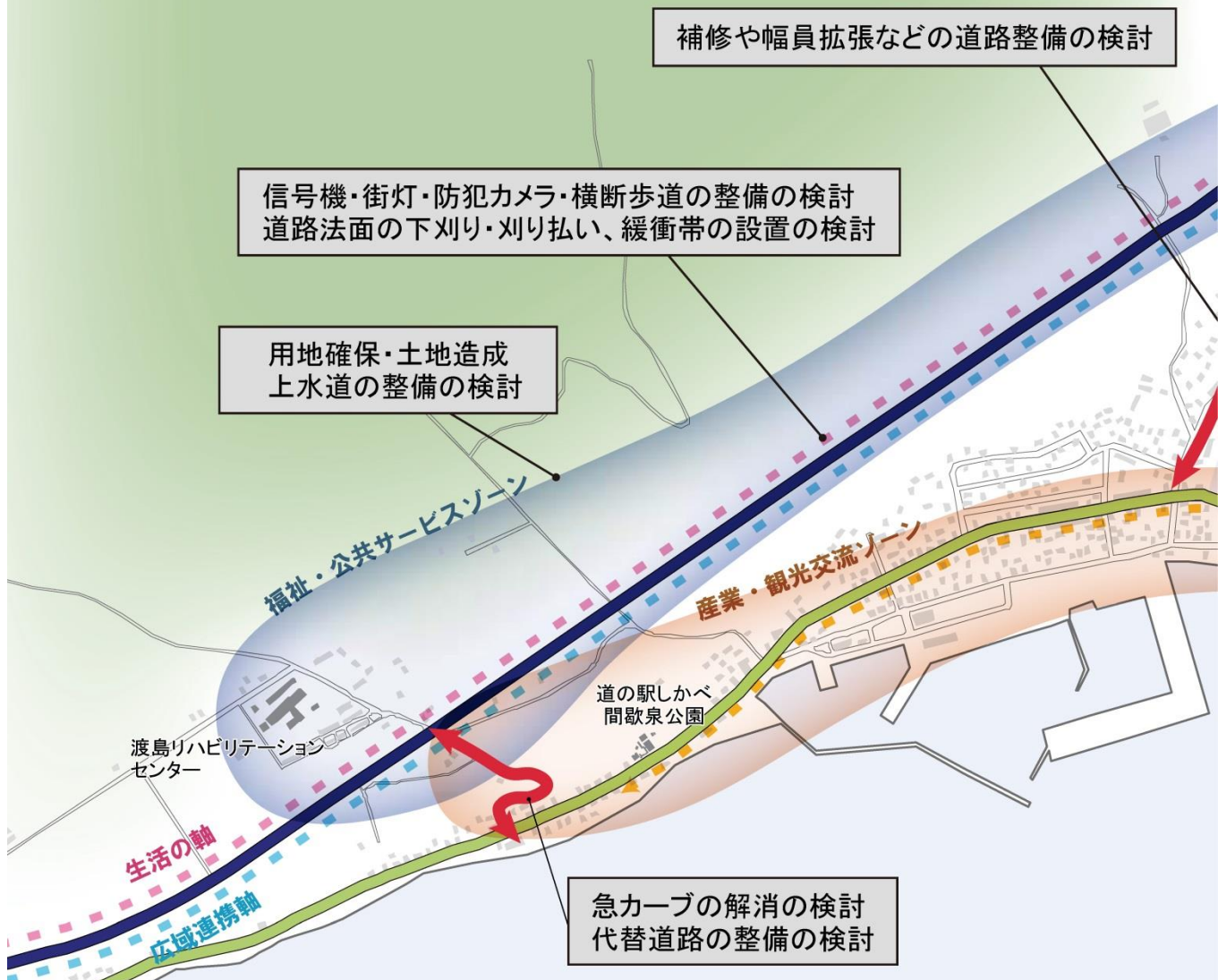
本計画では、「まちの構造」として複数のゾーンを設置し、機能が似た施設を集約することで、利便性や魅力の高いまちづくりを進めることとしている。しかし、単に施設を“集める”だけでは不十分であり、集めた施設をうまく“連携させる”ことで、まちの魅力や利便性が高まっていく。そのため、各施設間の具体的な連携案を検討することが求められる。

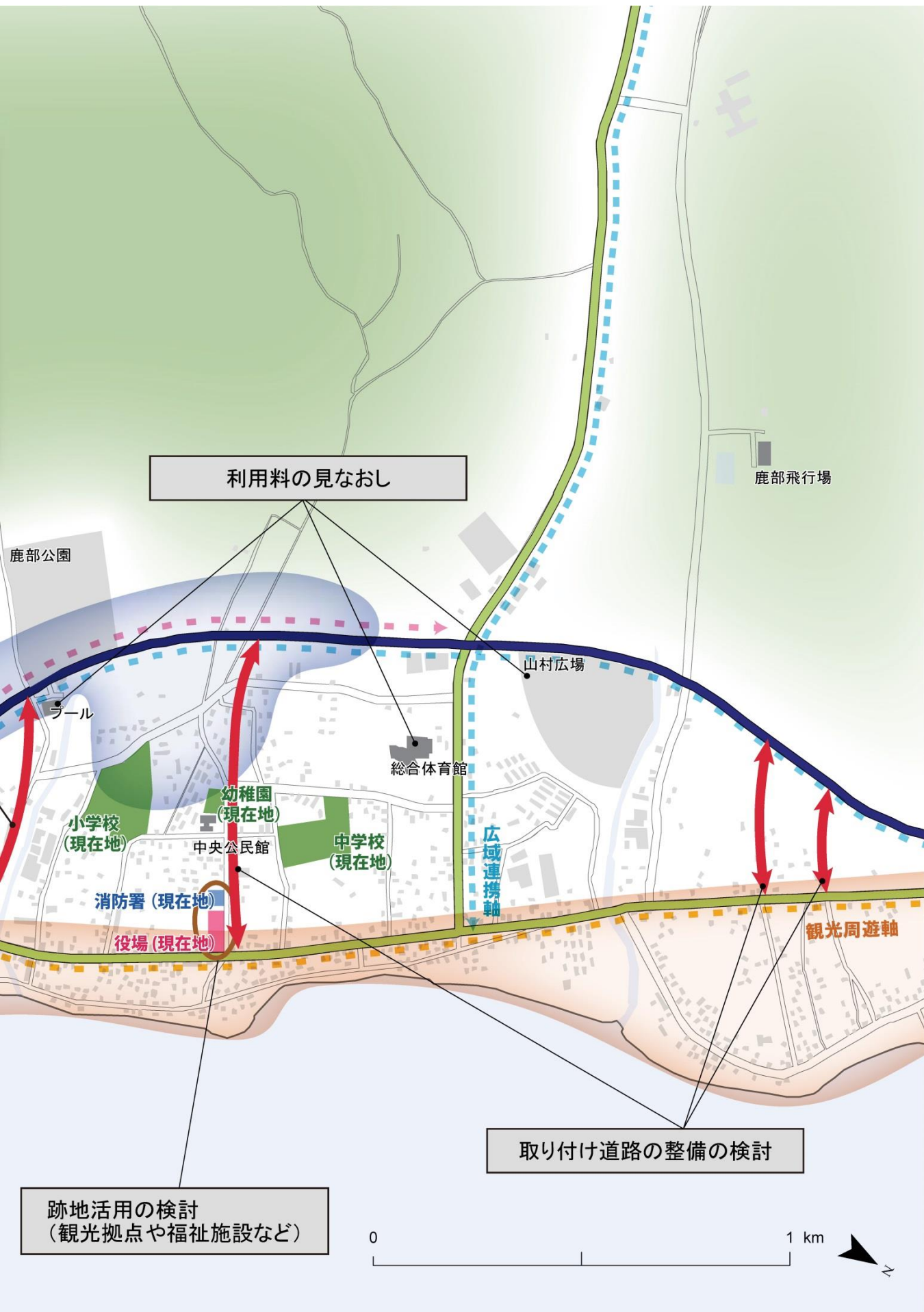
課題解決  
に向けて

- ・ 各施設間の具体的な連携案の検討  
(幼稚園・小学校・中学校での年齢が異なる園児・生徒の交流、役場と渡島リハビリテーションセンターの連携による地域デイサービスの推進 など)
- ・ 施設間での連携に関する協定の締結の検討

## 「まちの構造」および「主要施設配置図」

- ・将来の鹿部のまちづくりに向けて、主要施設の配置については、  
「災害リスクが低いこと」「交通利便性が高いこと」の2つが重要であると考えます。
- ・そこで「駒ヶ岳噴火リスク（火砕流到達想定範囲）」「津波リスク（浸水予測範囲）」を踏まえ、かつ交通利便性の高い地区として、**鹿部バイパス沿線（渡島リハビリ～道道交差点）を「福祉・公共サービスゾーン」**に設定します。
- ・建て替え等の再整備が必要な「**町役場**」「**消防署**」「**文教施設（幼稚園・小学校・中学校）**」は、この「福祉・公共サービスゾーン」へ配置することとし、集約も含め、今後事業手法などの具体的な検討を進めます。
- ・また、「福祉・公共サービスゾーン（鹿部バイパス沿線）」と「産業・観光交流ゾーン（旧国道沿線）」との連携を向上させるため、取り付け道路の整備や道路改良などを検討するなど、**ハード・ソフトの様々な課題**に取り組んでいきます。





利用料の見なおし

鹿部飛行場

鹿部公園

テール

山村広場

総合体育館

広域連携軸

幼稚園  
(現在地)

小学校  
(現在地)

中央公民館

中学校  
(現在地)

消防署 (現在地)

役場 (現在地)

観光周遊軸

取り付け道路の整備の検討

跡地活用の検討  
(観光拠点や福祉施設など)

0

1 km



## 鹿部町土地利用計画

発行年 : 平成 31 年 3 月  
発 行 : 鹿部町 建設水道課  
連絡先 : 〒041-1498  
北海道茅部郡鹿部町字宮浜 299  
TEL 01372-7-2111 (代表)  
TEL 01372-7-5294 (建設水道課直通)  
FAX 01372-7-3086  
HP <http://www.town.shikabe.lg.jp/>